

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム わかば

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、
居宅支援事業所介護支援専門員経験5年
評価調査員 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

調評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪問すると、台所では利用者の笑い声、「美味しいのが出来るかな」「こんな切り方かな。これでええかな?」「手を切らんようにな」と楽しそうな声。テーブルでは3月のカレンダー作りに精を出している利用者。「ああ、いい気持ちじゃった。さっぱりした。」とお風呂のいい香りをさせている人。

その人その人に合わせたスケジュールで時間が過ぎていく。管理者や職員が、「利用者が安心して生活出来るにはどう支援していけばいいか、利用者一人ひとり持てる能力を引き出すには何をすればいいか」を常に考えているホームである。

利用者を包み込む力、勇気付けられるものを与える不思議な力を感じさせてくれる。これが利用者の穏やかな表情、落ち着いた雰囲気をつくり出しているのだろう。「いつまでもここに居たい」と思えるホームである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

ホームのもてる力を地域に情報として提供し、地域の医療、福祉、介護の基点となって頂きたい。

利用者が生活の場で一人ひとりの社会生活をしてきた中で、気にかかる点、元気が出る事、やりたい事を一人に焦点を合わせて行動してもらってみたいは如何でしょうか? うれしさを増し、もっと元気が出るのではないのでしょうか?

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>利用者の持っている能力に応じ、自立した生活の支援をすることを理念に掲げている。ホームには介護の基本的態度や基本的行動の中に利用者の権利を認める事を掲げており、訪問者には目と心にこのホームの姿が焼き付く。</p> <p>入所して間もない人には不安が一杯あるという事を汲み取り、本人にとって一番の安心出来るものは何かを共に考え、「ホーム全員でその方向に即行動するフットワークの良さが利用者にとっての安心」と感じた。</p> <p>今まで色々やってみて、「利用者の望んでいる生活は何か」を常に考えているホームである。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者が役割を持って生活が出来るように、役割分担表を作成し、一人ひとりの持っている能力を発揮して生活に自信と張りを毎日持ってもらっている。</p> <p>その上、利用者が安心できるように声をかけ、「心よりあなたのことを思っていますよ」という気持ちを込めた言葉がより落ち着ける場を作るように思っている。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者の出来る事への支援は、その人に合った方法で声かけや見守りなど、職員の利用者への思いの深さが一人ひとりのやる気を起こしているように感じた。</p> <p>入所して間もない時にやけになっていた人が、今では「私がお手伝いするのかな」とずっと立っていたり、おやつのおはぎは「大きい方がいいよ」「あんこはもあっとつけた方がうれしいな。その方が美味しいよ」「いや、黄な粉の方が美味しいよ」といった笑い声が絶えないようになったひと時。こんな良い環境になることを実感した。安心して、落ち着ける場を提供するための気配りをしている。</p>		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>医療機関に併設されたホームであり、通所サービス、3つのホームがそれぞれの特性を生かし、共鳴し合って地域の福祉・医療・介護の3つの柱がスクラムを組んでサービスの向上を目指して取り組んでいる。</p> <p>この姿勢が地域の人々に安心を与える源となっている。すべての人が当たり前の生活を当たり前で送れるようにと願って、管理者、職員が真剣に取り組んでいるのが嬉しい。</p> <p>この取り組みをこの地だけに終わることなく、地域全体に広く情報を発信してもらいたい。</p>		